

西谷から多田銀山を歩く

第 117 回武庫川エコハイク 2017.02.11.エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km² 篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。

2 級河川だが流域に阪神地帯を抱え流域人口では全国第 10 位である。「阪神間の母なる川」である。上流から三田盆地までは緩やかに流れ、中流には武庫川渓谷で V 字谷になる一風変わった川である。この渓谷は六甲山の隆起とともに武庫川に洗刻された先行河川である。

ここに県営ダムを作る計画があったが豊かな自然環境を破壊することで反対する市民運動が持ち上がり、県は流域住民を含めて武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22(2010)年 10 月、ダムは検討に時間がかかることから、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

宝塚市西谷 宝塚市北部長尾山山系の北側に位置し、宝塚市の 2/3 の面積を占め、豊かな自然が残る。猪名川と武庫川(支流)の上流に広がる谷合いの村川辺郡西谷、中谷(現猪名川町)、東谷(現川西市)の一部である。昭和 30(1955)年 4 月西谷村は宝塚市と合併した。

平安時代には多田源氏の荘園だった。長谷の旭国際ゴルフ場付近に奥千本、駒宇佐という銅鉱山があった。

大原野 西谷の中心部。古く京都西山の大原野から移住したと伝えられる。小字名に京の大原野の名前が多く残る。西宮神社の十日戎で売られる福箕はこの地区で作られる。

大原野素戔鳴神社 素戔鳴命と天満天神を祭神とする。西谷地区の 5 つの素戔鳴神社の 1 つ。社叢が宝塚市天然記念物。杉の巨木 2 本、シラカシ・アラカシ群落、ヒノキ・シラカシ群落、ヒノキ・モミ群落がある珍しい植物相。

西谷ふれあい夢プラザ 宝塚市西谷サービスセンター、西谷児童館、農業振興施設西谷夢広場(農産物直売所)がある。

ごろく山里 地元の人たちが里山を整備して桜の植樹を行っている。

竜王山 西谷には三つの竜王山がある。大原野の竜王山 366m、布見の竜王山 368m、長谷の竜王山 279m、今回は大原野の竜王山である。山頂近くに竜王神社がある。

ソエ谷峠 名前の由来は不明。武庫川と猪名川との分水界。西谷と多田銀山の間には銀山道が 3 本あり、ソエ谷峠を抜けるのは西谷の大原野からの道。ほかに長谷、芝辻新田からの道がある。

近畿自然歩道 環境省は近畿圏 2 府 7 県で路線延長約 3260km を儲け、兵庫県では総延長約 590km 1 日コース 65 コースを設けている。このうち「埋蔵金ロマン多田銀山への道」は宝塚市玉瀬から猪名川町万善に至る 10.2km のうちソエ谷峠から銀山までの 3.3km を歩く、

猪名川渓谷県立自然公園 ソエ谷峠から銀山に至る道は猪名川渓谷県立自然公園に含まれる。

多田銀山 多田銀銅山。猪名川町銀山を中心に宝塚(西谷)、川西市、能勢町、豊能町、箕

面市、池田市に東西 20km、南北 26km に及ぶ鉱山地帯をいう。歴史は奈良時代、東大寺の大仏鑄造の際この銅が使われたといわれている。天禄元(970)年銀山川で金瀬五郎が白金(しろがね=銀)を発見し、源満仲によって金懸間歩(かながけのまぶ)が開鉱されことが記録に残る。遺構多田銀銅山は多田源氏の重要な宝庫となった。平安時代後期の長暦元(1097)年、能勢に採銅所が置かれ広く採掘が行われたことが記録にある。豊臣秀吉の時代に、大阪城の台所を潤した台所間歩や瓢箪間歩が今も残る。江戸時代万治 3(1660)年銀の大鉱脈が発見され、寛文元(1661)年幕府の直轄地となり、代官所も設けられた。最盛期には個数 3 千戸、人口 1 万人といわれた。口番所が 4 箇所設けられ厳重に警護された。四軒茶屋、相撲場、芝居小屋まであったという。明治時代にはいと鉱山王堀藤十郎が採掘権を取得して近代化を進めた。その後日本鉱業が事業を引き継ぎ昭和 48(1973)年まで事業を続けた。秀吉が晩年坑道に財宝を埋めたという「黄金伝説」が残る。兵庫県里山 30 の一つ。

多田銀銅山悠久の館 猪名川町立の施設。平成 19(2007)年開館。多田銀銅山の資料展示を行っている。

多田銀銅山代官所跡 江戸時代前期寛文 2(1662)年に設置された代官所の跡、面積約 2500m²(約 800 坪)あった。猪名川町教育委員会の発掘調査で当時の様子が再現できた。

高札場跡 高札場は幕府や領主が法令などの周知徹底するための高札のあった場所。傍に文化 11(1814)年の銘がある金比羅権現の石灯籠が残っている。

銀山橋 銀山井 5 箇所あった江戸時代の公儀橋(幕府設置の橋)のひとつで橋脚の下に当時の土橋の柱穴の遺構が残っている。

銀山川 銀山地区を流れる。下流広根橋上流で一級河川。野尻川となり、さらに猪名川に合流する。

甘露寺 第 30 代敏達天皇のころの開基と伝えられる。本尊は阿弥陀如来立像。

代官所の門(広芝邸) 銀山の中心本町通りにある。明治の初めに銀山役所を廃止した際、門だけを広芝邸の門として移築。当初の門は馬に乗ったまま通行できたというのが移築の際低くされている。

金山彦神社(かなやまひこじんじや) 大同 2(807)年に建立され天禄 2(971)年、源満仲によって修復されたと伝えられる。古来よりの鉱山の神であり、地元では財宝守護、防火の神として知られている。

神宮寺 現代では珍しく神仏習合の形のままに残されている。鉱山労働者は換気の悪い坑道内の粉塵や灯明の油煙のため眼病を患うものが多かった。眼病への霊験あらかたな薬師如来が右側に、祭神として山を支配する大山祇命が左側に祀られている。

青木間歩 昭和 38(1963)年日本鉱業が開坑した坑道で現在も見学可能。入り口付近にアオキが密生していたのでこの名がある。「間歩(まぶ)」とは坑道のこと。

彫刻の道 猪名川町には彫刻家故鈴木政夫氏の石造彫刻が街角に 170 体置かれている。銀山町には公会堂から金山彦神社までの間に 7 体ある。

螺旋階段 猪名川パークタウンの開発時に銀山町の児童の白金小学校への通学路として設置された。